


# 一般質問通告書

次のとおり、質問したいので通告します。

令和3年 8月 17日

山北町議会議長 児玉 洋一 殿

受付番号	第8号	質問議員	12番	富田 陽子	
件名	安心して出産できる環境づくりを				
要 旨					
<p>今年3月、神奈川県立病院機構、神奈川県、小田原市より神奈川県の医療構想に記載の県西地域の医療に対する課題解決のための『小田原市立病院と県立足柄上病院との連携・協力の方向性』が示され、足柄上病院の分娩機能を小田原市立病院に集約化する記載があった。</p> <p>現在もすでに、新型コロナウイルス患者受け入れ体制のため、産科を休診、院内助産中止に伴い、妊婦検診も行っていない。町内には産科の病院もなく、当町から一番近い足柄上病院での産科・分娩機能の廃止による小田原市立病院への集約化は、物理的距離により出産のリスクも上がる。当町で出産し子育てしていきたい若い世代にとって、不便を強いられ不安になると考える。</p> <p>また、足柄上病院で行われていた助産師による院内助産は、畳の上での妊婦に寄り添った自然なお産を促す分娩スタイルで、産後のケアも手厚いことから、存続希望の声も多い。</p> <p>若い世代の移住の促進、子育て支援に注力している当町にとって大変致命的であり、少子高齢化、人口減少にますます拍車をかける危機的状況である。</p> <p>県の方針に対し、足柄上病院の産科、院内助産存続の県への要望、町独自の妊婦へのサポート、1市5町広域での助産院の誘致など、安心して出産できる環境づくりを早急に整備すべきではないかと考え質問する。</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1. 県の方針について町の見解は。</li><li>2. 県へ足柄上病院の産科、院内助産存続を要望していく考えは。</li><li>3. 安心して出産しやすいまちにしていく新たな施策は。</li><li>4. 移住者はどこでどのような出産ができるのか情報に乏しい。 移住者、若い世代向けに産科、各医院の出産サポート、費用等の一覧を作成しHPに公開したり、配布しては。</li></ol>					